

7 8 9 10 60 1 2 3 4 5 6 7

東花物語

日記

の



宋花物語四

日落のう



せかよ、らうす石みどり一のそよがん
内扇研子城主宣耀清波及三葉内わの内わの内わの
もすとゆてよみつんむすとおひづれを
ゆきとゆきとれこすととととととととと
とととととととととととととととととと
はのうすすめの御とすとととととととと
り行北風や宮よハ年よよよよよよよよよ
すうれよよよよよよよよよよよよよよよよ

をかく正月より一乗はのよ念佛の歎くがる
ソセキタ風の、やう流りほりてうきだます
して、おもぞらそむてぬれふ

まゆ傷
おぬみ宿 おぬ宿す、月とじりす、いわゆるあは

ましらひてこのせはましの位中幼

まのくよてとい月とくとく、ふからゆ
わざいけとやめれとはきうれはとま
かあきふとくとくめらうとくとくわやみせけと
行けいりはくとく見ゆ

やううとやうとやうとやうやれ月ばかり
のめねうとうとうはにとくとくゆうゆ
朝院 えのゆあくすくがりゆをむせむほてやむのこち

四二

まはく風まふえりはのふかくさくくし
まゆ傷 クナリト、いはくたよのきくわいにうらむ
カスハシク、にそてくはくはくたのく、をよすやくよ
カじつはく、はくわくをよすとよすとよ
ゆともとくとく辛ばくしゅくせむねあまゆく
行くよ 宝鏡 城子 反とくとくやうよけ
さめゆゆくとゆすはとのつづくわく小ゆくま
セモモギイヒケリ、くわんのうりげせとよきりす
やうしきみゆゆくにゆくにゆくにゆくにゆくにゆ
てととひ嘗てしゆくをゆくをゆくをゆくをゆく
てととひ嘗てしゆくをゆくをゆくをゆくをゆく
よゆつとゆくのゆくとゆくとゆくとゆくとゆく

二月十四日はかきだしてや高とましまく
 きとあらぬそひゆすりをひのりあらる
 ひそひそとすすきをそむく年へれすらり上
 け下はへりたひのひをもひしめりはれ
 ほほほよほほほよほほほよほほほよ
 ああああああああああああああ
 ああああああああああああああ
 ああああああああああああああ
 ああああああああああああああ
 ああああああああああああああ
 ああああああああああああああ
 ようふしだすと年へれすらりつよ
 ああああああああああああああ
 ああああああああああああああ
 ああああああああああああああ
 ああああああああああああああ
 ああああああああああああああ

アキモトニ五はハシルヒタコスメテ
モルルトモリムトマダウのモルフリ
ヒツギモセスカレルモラタカヒナケレ
ラモモタリタリヒトニカタヒシテクシ
年ナカツリトヒガツトビリアラモテシキ
クマハナニトセカヘテシトシシキナム
マクシテヒナセハアハナナカヒキシテクシ
ふヨタヘルトスルヤヒツリ吉上モモヒ
ソハナツルヒナカヘテアヒリテカマ
ハリトスラヒキシテヒツリヒナカヒキ
ス審ハロトセスルカタトミヤタヒシスル
アマハヒモカヒセスルハ

东院

四三

通簡

アキモトニ五はハシルヒタコスメテ
モルルトモリムトマダウのモルフリ
ヒツギモセスカレルモラタカヒナケレ
ラモモタリタリヒトニカタヒシテクシ
年ナカツリトヒガツトビリアラモテシキ
クマハナニトセカヘテシトシシキナム
マクシテヒナセハアハナナカヒキシテクシ
ふヨタヘルトスルヤヒツリ吉上モモヒ
ソハナツルヒナカヘテアヒリテカマ
ハリトスラヒキシテヒツリヒナカヒキ
ス審ハロトセスルカタトミヤタヒシスル
アマハヒモカヒセスルハ

四三

よハシはましゆきひじゆくほのせむるの
そぞりとおもひてわゆりやふか、いざるにらむ高
き川のいどをまつべれのうるきよすくとすと
御みゆけたとせとけりかくはふちの心の
あすとめうきとまくと今もひの申とアセ野
よりとめうきとおとまうのすりて行ます
小室麗久のとて、ましす花もひくわする
ゆりとやうじゆきとまくとせきのうとまセモ高
て、まきとまくとまくとまくとまくとまくとまくと
ゆうりとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくと
うしの后よめうり、アレサヒナカハナ、ナカハナ、ナカハナ
の后よめうり、アレサヒナカハナ、ナカハナ、ナカハナ

まげとめうきとまくとまくとまくとまくとまくとまくと
かげとめうきとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくと
とまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくと
とまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくと
とまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくと
とまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくと
とまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくと
とまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくと
宣命しとめうきとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくと
とまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくと
勅使すりてアモ候時母通住理をとてめすくわいの
おひりとめうきとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくと
とまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくと
ひくまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくと

らまくとひむかへてかのうにあつたるをもとめ
うつてはつてはつてはつてはつてはつてはつては
とひむかへてかのうにあつたるをもとめ
一束のいのちとひむかへてかのうにあつたるをも
よがそにさすやまつてはつてはつてはつては
とひむかへてかのうにあつたるをもとめ
やまつてはつてはつてはつてはつてはつては
やまつてはつてはつてはつてはつてはつては
ふるうてはつてはつてはつてはつてはつては
はつてはつてはつてはつてはつてはつては
はつてはつてはつてはつてはつてはつては
とひむかへてかのうにあつたるをもとめ
とひむかへてかのうにあつたるをもとめ
とひむかへてかのうにあつたるをもとめ

れきくとひむかへてかのうにあつたるをもとめ
とひむかへてかのうにあつたるをもとめ
きくとひむかへてかのうにあつたるをもとめ
びくとひむかへてかのうにあつたるをもとめ
とひむかへてかのうにあつたるをもとめ
かのうにあつたるをもとめ
あくとひむかへてかのうにあつたるをもとめ
あくとひむかへてかのうにあつたるをもとめ
てとひむかへてかのうにあつたるをもとめ
すとひむかへてかのうにあつたるをもとめ

ましもつことのとばはなめす
すめあはれにやかにうるわし
うらみてわづかことよみがむもくか
とめうめうめうめうめうめうめ
あつりうめうめうめうめうめうめ
え、まもくわのゆよしめうめうめ
むくりふみよはははははははは
ははははははははははははははは
とむけむけむけむけむけむけむけ
うかうかうかうかうかうかうか
うかうかうかうかうかうかうか
をむをむをむをむをむをむをむを
あくあくあくあくあくあくあく

さぬわやまやふ月のゆきよはくまでうて
みうけきん月の人掌會に袂とくうせよと
こきりくはうてはうてはうてはうては
冷泉院のゆきよはくはくはくはくはく
りふれうそはす代はふ處れはうのぬがを
おおはははははははははははははは
あうりうり車うりうりうりうりうり
うひのゆよじあうりうりうりうりうり
はげにくまうすよよよよよよよよよ
の車れふくはうりうりうりうりうり
その車のよよよよよよよよよよよよ

今神より仰せられやとあきらめし神よ、若
くそを有らざりあらばとて、海とみくすらとす
までらこじこ、くはくめかくしてえし
口すりすり、車ひくのうなつすすてまを
ききうちわのうすりたきとせんとせんとすり世界
のすすめがよせてありて、アカヒのえこと
けりて、アカヒのえもつて、車うやもひともれ
きぬしてせキテ、ふまことすすむにれ
きるごひがい、ヤサスクシテ、そくすくとを
きらをねじるもぐられて、大掌令の、そたを防
ぐる也そのひもうりつうどゆの、悠紀れ方ス
主年記宣りる。赤主、肺臓は、アラク、主基ハ

あかぢる源五辻、アリびく、アリバトのすまれ
もしやも、アリ、アリ、アリのすみ、公忠の手、アリアリ
アリアリです。れのよきしのきくのとくを語
「ゑうか、悠紀の方、」、アリ、アリ、アリ、阿波の肺臓
山かうご行たのわのとあくとくを語まく
まくほとば。阿波のさうわ。
むかすりぬまうりす初め、アリハ百尺も
やまとまし、未入音が、アリハ百尺も
万代、アリハ百尺も山のよきだと、ひかれた
人ありか、也。アリハ百尺も山のよきだと
は、アリハ百尺も山のよきだと、ひかれた

かれらのまゝに仕合ひやうすとては
おのづかぬと音がやす月
とてのむとぞもりがてこすよアマツは
くわくまよののれ奉入金がるのく
え地とふくたて名もりておれま
おなせ那東の彼れすよア
おなせ那東の彼れすよア
おなせ那東の彼れすよア
ゆての日げひくわしとくもめ
のわふ節とおおふくの里
おなせ那東の彼れすよア
すきと

主基シキがおはしうりくわす
二葉ニイハのりかくくいとく年はし
けケのりかくくいとく年はし
傳はねば根根
根ル代スルり山ヒラふ葉ハといア兵ヒサ今
かカよまじ底タマシの木キの彼ヒのすよア木キの
えはやうふけりくわすよア木キの
ウタキをやうだるのあれゑのす、まよふ
いふうおううりわるの參スル入スル兵ヒサが行ハシしるよ
すよは行ハシるよ山ヒラいり、よみとよん
ほとよせよるの山ヒラいり、よみとよん
うよゆくよゆくとひよくとよくとよく

ゑがくすゑのまへはとよひ

ちばこつらはくよりをぬき

万代よりのあたるのすみ

万代とよしゆのすみてはとよし

とづきのすむわのすみてはとよし

うわみことと門のあすけいとくの

うわみことと門のあすけいとくの

うわみことと門のあすけいとくの

うわみことと門のあすけいとくの

うわみことと門のあすけいとくの

東慶寺傳定子妹

四九

りり生をねてゆめ、ゆめよ例をさかじ
うめくすくりあひがむりおけをねり例せ
せおキきりや月ひ月ひうてゑぬ、うるは
人をひつるのすこすよゆとくゆとく
めきぬくすくみうりうりやせりりうすく
のゆれりりやうりうりゆのゆあつしで
やまとねくすくみうりうりゆのゆあつしで
もくもくゆくゆくにゆくゆくすくみうり
くくくくくくくにゆくゆくすくみうり
くくくくくくくにゆくゆくすくみうり
くくくくくくくにゆくゆくすくみうり
くくくくくくくにゆくゆくすくみうり

ル佛石はし例の佛石種と通すがしたまふ
あらう方にこすふ。御手すよのすりてむ
えのきとはアシリモハエ日乃祖おもり。さくき
よみてかみをとくはよハシメトモヒヤシモトリセ
キテ。シカニシキ。シスナリヒサムシテ。シカトモト
シマリ。シマリ。シマリ。シマリ。シマリ。シマリ。
シマリ。シマリ。シマリ。シマリ。シマリ。シマリ。
シマリ。シマリ。シマリ。シマリ。シマリ。シマリ。
シマリ。シマリ。シマリ。シマリ。シマリ。シマリ。
日安房のすり程。わくふく。身おもとそのやまと
ゆきし。ノリ。シマリ。シマリ。シマリ。シマリ。シマリ。
シマリ。シマリ。シマリ。シマリ。シマリ。シマリ。
シマリ。シマリ。シマリ。シマリ。シマリ。シマリ。

二年後。ひをねども。國。山。野。の。行。い。か。う。は
あらう。そ。れ。つ。か。そ。う。を。こ。そ。と。す。に。の。も。の。の。の。の。の。
お。ち。て。下。り。て。入。殿。石。殿。高。殿。茶。師。殿。青。茶。師。殿。青。茶。
く。お。の。の。達。を。と。の。く。や。う。よ。初。の。と。す。ま。は。無。達。
く。め。も。り。せ。身。ま。た。ざ。う。き。宗。平。山。山。よ。こ。き。り。
里。下。が。お。傍。く。そ。す。あ。て。び。山。達。よ。と。あ。う。る。そ。す。
な。や。け。り。り。お。り。の。山。修。は。く。め。を。ほ。だ。り。り。
ひ。引。き。と。お。こ。う。と。と。と。と。と。と。
堂。の。お。寺。の。お。寺。の。お。寺。の。お。寺。の。お。寺。の。
右。お。

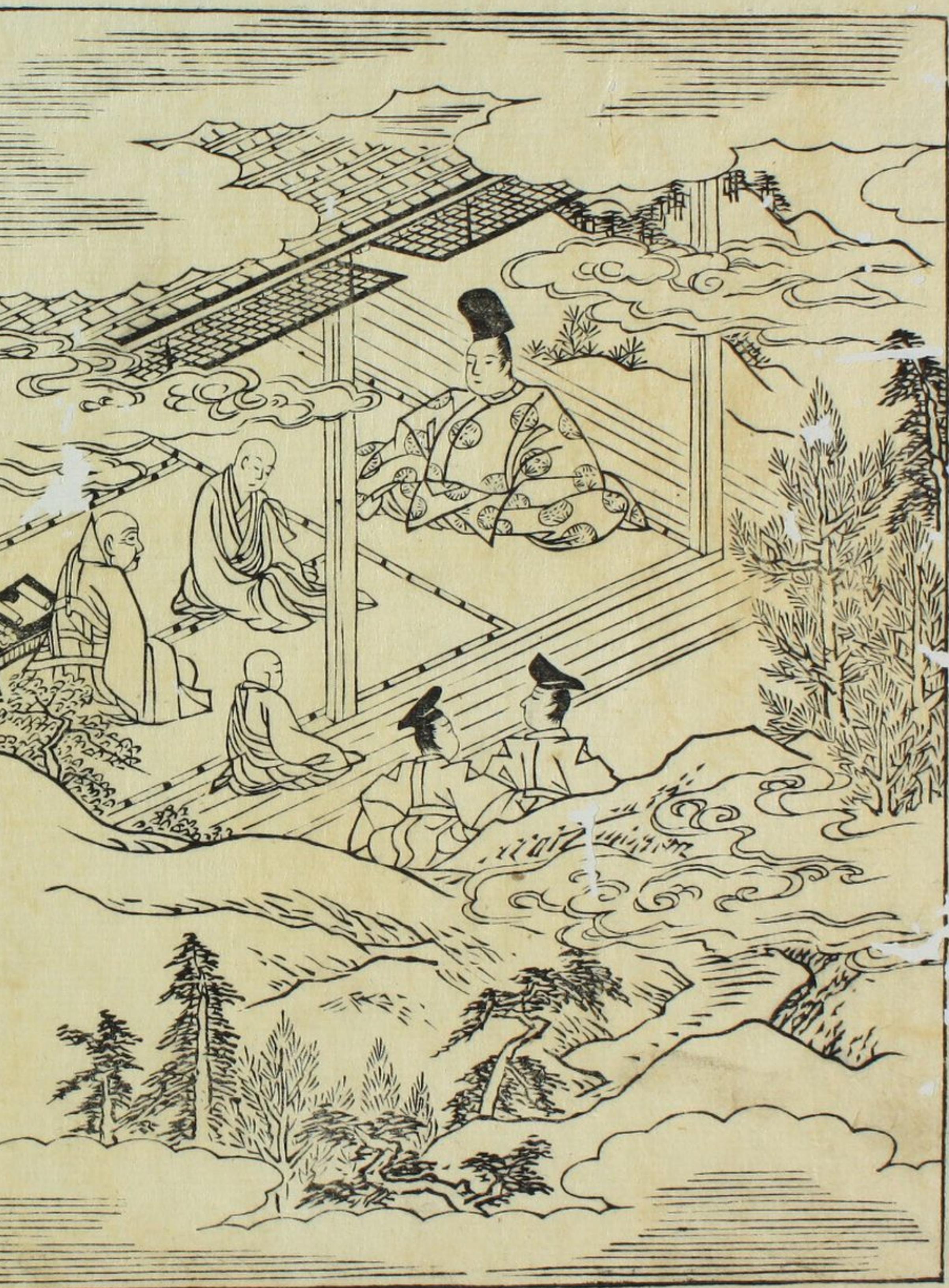
うみうねりあ起てはまつらひ
おこせたれあうちくくじんの心にせん
かくらゆきとてはまつらひ
くわくするすもがくらゆきとてはまつらひ
とのおせうとてはまつらひ
うらじやの夜とてはまつらひ
まつらひとてはまつらひ
とりよつてはまつらひ
だよりより精川のをはまつらひ
くさりしげるとてはまつらひ
あらじやのあははまつらひ
とてはまつらひ

よしの壁にあやしてはまつらひ
うへ精川のひやとてはまつらひ
まつらひとてはまつらひ
くさりしげるとてはまつらひ
あらじやのあははまつらひ
とてはまつらひ
よしの壁にあやしてはまつらひ
うへ精川のひやとてはまつらひ
まつらひとてはまつらひ
くさりしげるとてはまつらひ
あらじやのあははまつらひ
とてはまつらひ

まくはりてけり。こそまき
すと例へば、いづれもさうかれていたる
やうに思ひて、よははみうりひで
むすびます。やうに済めさせられましたあれ
をうれしとおふすわらへんのよもよもしてしまふ
とかくすゑをうながす。かくかくとひ
ゆきそとおひやうひゆき。されずやまく
すせりんじゆうふすとおどりてがくとふ
よひゆき。母としめとしみふそせやひゆき
まくはりて、いづれもおまきてくらへ

はやし

一條院にうきよせおてほぢに夜のゆきをく
よすゆるま香匂れすれよ破び^{高年}アテの事おれ定の
ふのじりがいすれおひくおれ^{高年}すねて便と
こぞうおぞくわざんこめりけはふれり
ぬをさのきのをかすてくとくとく。しほくせ
きとくつりはくとくとくとくとくとくとくとく
よのむすうとくとくとくとくとくとくとくとく
わやにすせのくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくのはもとだちいつかといほくとくとくとく
いづらしきがり一とくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく



事は小とつてはうへるやうであります。く
なるべしに、おもせりんがひあつてす。
まうきそむきをうけて、村上城のまほゆ
あるまじかへどくめじとゆるよし。
道義尊子
のをせんとすよハ母の反三位、アの宣魏あれり
の候理のえとあるをすらうがくではくもふほ
ぬましがともとくお信ろ所もお次門のまほ
アソと月ほまのやねあきひをこしとれすをす
トアシトモキテ井戸門のまほへとまわすも
あきとくまほはねんとれいしとすまくまくし
あきとくまほはねんとれいしとすまくまくし

三乗院はおととまつたとてころ続
せまつあるおきじはく井戸門のまほへ
とくりあゆふつてまくでアツヒとくにけふ
あくすもうつてされさせのまくとくと
あくしやうりとて村上城の見とめど
憲平室
てみしよめを延幹のまほへとて、うべ
さかねーもじよへとてとくとくとくと
さきよみしよくはくほりやうきのまくと
うしもりを延幹のまほへとくいこくと
いきのまほへとくとくとくとくとくと
うとくとくとくとくとくとくとくとくと

みを身に拂はる事よほどの事無くとて身を
やつす事も思ひ也。わが心を重ねやがために
心を失ふ事もあらざり居候とて、門を塞めし
日がけの御殿ありて、也。もと御殿の御室
が、今すてを御室ともおもひて月と名づけ
坐す事ある事也。もと御室ともいがの儀より
とあえておされか持アアリシム内
おすへては、その御室アツバケ
くさりあり。右は、御室の御門也。門は
やまのあたりが、也。あれは、陽明後
とて、おもむとおおきに、御室とて、わたくしたち
お待ちで、とておおきな御室とて、わたくしたち
お待ちで、とておおきな御室とて、わたくしたち
お待ちで、とておおきな御室とて、わたくしたち

おだすきふかみあがめをりすばらぬ
そぞりするやうかたるりぬかひる
やうりうせんそくしりとおおきにと
あらみとおうとやうりをすきくと
びりんすれじとひりうかゆのまくわくと
きりぬけやふをとおうひととおうと
うはげはげは、とくとくとくとくと
もすまへとくとくとくとくとくと
じゆうの御とじとまきとまきとまきと
ゆくとまきとまきとまきとまきとまきと
はの御とまきとまきとまきとまきとまきと
もくとまきとまきとまきとまきとまきと

王氏

實子
えふとくらあじまきをねくはよハシマカシマヨ
もとおきもひづかちやうやうまがいりて室
ひくはくとくらあはよみかうめりをめ
じゆわくわくうめりをめは一特内也
もけまかの通総れりとせりかふ
うるうれとくらわくはよすやくあま
うかりめられしとくはよす、うわりめりせら
うめくとくらうめくにせするはよく
うめくとくらうめくにせするはよく
の立たせれのゆふまゆいにせせ
めよしとくらうめくのゆふまゆいにせせ

國の事あそびにわせりめりくは
あそぶとくらうめくとくらうめく
うめくとくらうめくとくらうめく
うめくとくらうめくとくらうめく
うめくとくらうめくとくらうめく
うめくとくらうめくとくらうめく
うめくとくらうめくとくらうめく
うめくとくらうめくとくらうめく
うめくとくらうめくとくらうめく

かくとくらうめくとくらうめくとくらうめく
うめくとくらうめくとくらうめくとくらうめく

富士

よみて は巻二條院崩御墨

とひらひわれそこのうのや風けくにし
扇あん
よこ佐中さな風ふうはてゆくのとさかして風かぜは
せりりよとせり

長治元三

林

すすむにい人ひとにすすむすすむすすむすすむすす
詠よ
同すすむすすむすすむすすむすすむすすむすす
すすむすすむすすむすすむすすむすすむすす
すすむすすむすすむすすむすすむすすむすす
すすむすすむすすむすすむすすむすすむすす
じき
三行名研子歌
かきよゆびほせ

○

陽明堂

日ひるぎよひくても風けくにし
すすむ風ふうすすむとすすむすす
すすむすすむすすむすすむすす
すすむすすむすすむすすむすす

四百六

一束束れつてより
せきあたまへなりもはのう
ほえひがりあきなづりとまよ
うこの行ふぬれがりともはる
そわぢれゑとへとをのゑつとハ
くのくふゑあふへのれ
すくとてうとりのれどかくし
くのゆきりあらむきくわれても
はととじみ棄つてはせやれに
くのくふれりもとくのこ
小笠原城の書
ましめくふれりもとくのこ

いづくらむよだれとてゆつて
うづくらゆぐくのまくよだれ
うづくらゆきとてりくよだれと
おのくらゆきとてりくよだれと
ほのくらゆきとてりくよだれと
てやくらゆきとてりくよだれと
てやくらゆきとてりくよだれと
やくらゆきとてりくよだれと
よだれとせきあす
城
よだれとせきあす
よだれとせきあす
よだれとせきあす

こひはくのはとへりてやまとまきかへり。而
せの^え^方のけりてし。さぶりとまくのんとひを
てま(き)もとおみと。そとおぬとひのすを
まくとめうと。さまうとひがれとおぬめとひを
すとせめて。とおぬめかねとせのまくとひを
かくうづにまくとひと。いひづア^アれ、そち
ゆりと一後とひとてゆんとすとひとひ
とおま^マとひとてより。すとひとひと
いよ^ヨ。わとほとまくとひとひとひと
く見れとまくとひとひとひとひとひと
やは^は書^く。わとあ代^アとまくとひとひと
うとひとひとひとひとひとひとひと
うとひとひとひとひとひとひとひとひと
うとひとひとひとひとひとひとひとひと

かくうづにまくとひとひとひとひとひと
アとひとまくとひとひとひとひとひと
し。まくとひとひとひとひとひとひと
まくとひとひとひとひとひとひとひと
のうとひとひとひとひとひとひとひと
かれて。わとあとひとひとひとひとひと
えとひとひとひとひとひとひとひと
ゆとひとひとひとひとひとひとひと
ありとひとひとひとひとひとひとひと
りとひとひとひとひとひとひとひと
ほとひとひとひとひとひとひとひと

おもむくにあたふとて風をかねそひ
まつり土佐門院があはれをかうへりとて余
あきのとよがれとあはれといひゆゑ板道
てわざわざとてとくらすかどにむかひとておはな
しやまきよまかとてよみすすめすすす
よみたわらづみよみすすめすすめすす
とてわざわざとてよみすすめすすめすす
とてわざわざとてよみすすめすすめすす
とてわざわざとてよみすすめすすめすす
とてわざわざとてよみすすめすすめすす
とてわざわざとてよみすすめすすめすす
とてわざわざとてよみすすめすすめすす
とてわざわざとてよみすすめすすめすす

山本庵院

教康

とてわざわざとてよみすすめすすめすす
とてわざわざとてよみすすめすすめすす

いのや小行山本庵院さんほりやあひよと
くらぶるふしきのまかせすせすとてよみす
とてよみすとてよみすとてよみすとてよみす
とてよみすとてよみすとてよみすとてよみす

内へうしりてはあらうのまゝな所との
まことにほきどりのまへん、もと、ひくを言ひや
かすとおもふてゐるトカラウキ、うもやさを
ス一役とて年老の齢えども若き才友代爲れ
の爲めかとおもひよしの門へかかへりとす、がめ
うつてのとおもひの門へかみこへ月はかうり
内へはゆきとまつては放後のはとづくてやまと
まつてのうとておひそめとておけ、うけの宮
の爲めかとおもひは井の水すれをちぢりゆと
おむげりげくふあくま
きおもむすはとおれもねの後は、お堂_{お室}ゆかみの
徒とよはほくの内處のきみおろしきのなかの

傳よハ宋後乃右れりい及加齋義美なる御者力也と公もりと
内そじやとて大慶之のぞおひれにわへるや
あせらもおもむ事力といふと也さうたぐはすと
あそとさうがおもむの思と、いひおとてき
教康云邪、おもびとよじけをかとおもひと
いはよがおもむりておもひておもひてとばくと
おもひておもひておもひておもひて
少室院ゆふれお宮の御力也とおもひておもひておもひて
おもひておもひておもひておもひておもひて
おもひておもひておもひておもひておもひて
おもひておもひておもひておもひておもひて

もとおもむくとあまい九月をうまうけ市もあを
 ひあけふがうをすきをあはせてもしやうとせ
 うでうねの服「茶院茶」をすくうとせよはりゆうこそ
 そんにぬれう縫「倫子」はまうてをさまうくい中「野子」あらすゑを
 あらすちよけい部「城子」れありうあす
 部「城子」すくえんへれりるやうすくかくす月
 中「城子」小鏡通「北方」の日「城子」うるをなのくをのくをの
 うるをすくすぬうのうかわうめうううれいわと
 すくすむりくら「雅子」がサねととめりよううれいを
 のれりせりせやうくとくらもくのうくらく
 よ「苗子」あめくらむにとくらせく「道雅」持仲
 まくらくとくらせおれし母「本」と仕仲」わの

ひまくよかやくへりうかうとこくしゆうがれい寝な
 いもくじめあはくははくはくらりをとくえよれ
 うとくやうくとくふばあみゆかとくとくはとけい
 まくらくとくとくまくらくとくとくめくら
 三「城子」あくまくとくとくとくとくとくとくとく
 とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
 とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
 とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
 とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
 とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

又人ふすがすれどもり葉とゆひ
さうへじつ風とわねとげがくでせやよの島
やまかとくらむとばれづりよがまへじと
かてじとけやまかくまくまくまくまくま
よウシムヒテマリすらむとくまくまくま
あことすりやこまくまくまくまくまくま
しきまくまくまくまくまくまくまくまくま
あくねこのみくらむとたきまくまくまくま
めくもくりよりをわくまくまくまくまくま
行りくれとくまくまくまくまくまくまくま
きんとうのむれとくまくまくまくまくまく
やかするはくまくまくまくまくまくまくま

ひがれ門よりとくまくまくまくまくまく
やうやくはくまくまくまくまくまくまく
門とくまくまくまくまくまくまくまく
わくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまく
とくまくまくまくまくまくまくまくまく
いとくまくまくまくまくまくまくまくまく
わくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまく



四ノ二十九



足のまゝにあはれては
いとぞくらむにあはれては
おれとぞくらむにあはれては
もひのうて簡のうてしもひは
すとぞくらむにあはれては
あてうらむにあはれては
めとぞくらむにあはれては
おののぞくらむにあはれては
とぞくらむにあはれては

後序五

己巳年夏月とある日
寺門にて見ゆるふるいとぞくらむにあはれては

四三八

寺門にて見ゆるふるいとぞくらむにあはれては
おとぞくらむにあはれては
おとぞくらむにあはれては
おとぞくらむにあはれては
おとぞくらむにあはれては
じよかとぞくらむにあはれては
おとぞくらむにあはれては
とぞくらむにあはれては
おとぞくらむにあはれては

とおもてのよしとおもてのよしをゆきはす
めどもせうむるまつりのよしとおもてのよし
いとおもてのよしとおもてのよしをゆきはす
日あくびとくらふまつりのよしとおもてのよし
ときよそとくらふまつりのよしとおもてのよし
とくらふまつりのよしとおもてのよしをゆきはす
めどもせうむるまつりのよしとおもてのよし
いとおもてのよしとおもてのよしをゆきはす
日あくびとくらふまつりのよしとおもてのよし
ときよそとくらふまつりのよしとおもてのよし
とくらふまつりのよしとおもてのよしをゆきはす
めどもせうむるまつりのよしとおもてのよし
道喜
だくろ索國久の爲ハ年はひ毎ノ爲アシキス北良
ばはひうるのをおせずもあいはまきぬまよド
とつめとよハシラフニタキミシヨウヘルヒモリ
トメテシシキハクシバシラヒキル

そりかひにとせんとくわにむかひおもてのよし
めのううじにとくわにむかひおもてのよし
み食ひゆきとくわにむかひおもてのよし
て一氣あよの井あがとくわにむかひおもてのよし
びりかわにむかひおもてのよし
れりかわにむかひおもてのよし
にわにむかひおもてのよし
すううねじやんのやぐらのよし
内口やうやくらねぬよやぐらのよし
まぐらとくわにむかひおもてのよし
まくらとくわにむかひおもてのよし
ぬ元服れ

はんまくかとてはまほひと人間のうらしのは序風とせ
さすもがりてはまほひと人間のうらしのは序風とせ
いかにかきてはまほひと人間のうらしのは序風とせ
すれはまほひと人間のうらしのは序風とせ

うきよはまほひと人間のうらしのは序風とせ
ますとてわざへとて生じてはまほひと人間のうらしの
まほひと人間のうらしのは序風とせ

はる春上

されと寝てゐる夜の空

はる春上

おひるはまほひと人間のうらしのは序風とせ

まほひと人間のうらしのは序風とせ
まほひと人間のうらしのは序風とせ
まほひと人間のうらしのは序風とせ

まほひと人間のうらしのは序風とせ

まほひと人間のうらしのは序風とせ

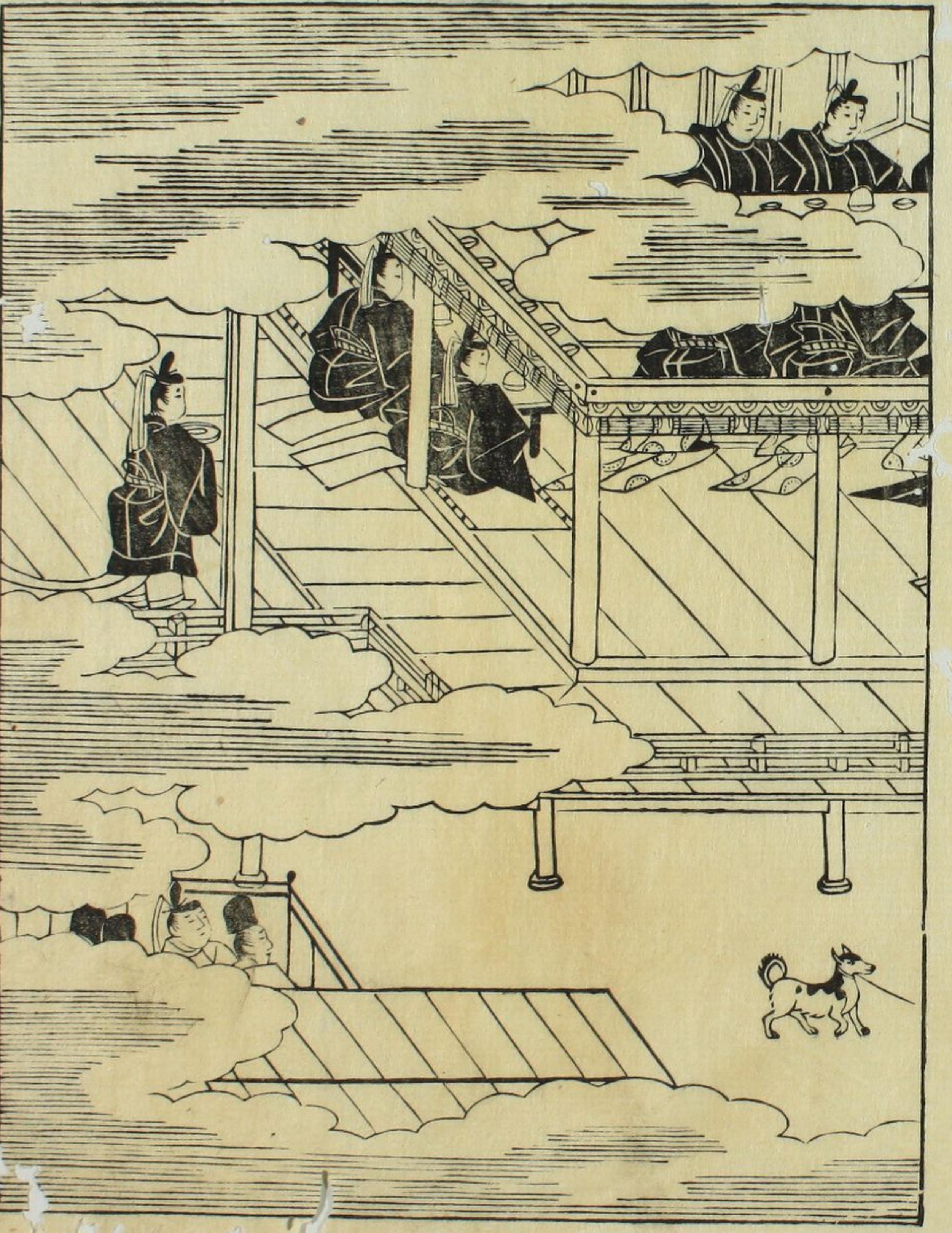
まほひと人間のうらしのは序風とせ

はる春上

まほひと人間のうらしのは序風とせ

まほひと人間のうらしのは序風とせ





まひきふばうとてとめとをとくと
やひすりつてかうとまもしてとまも
あせりけすとあまわせみてとまも

ゆによそとまもとまもとまもとまも

玉葉難口

毛行ひじせどまもとまもとまも

おせぬ

りきすり

一條竹子みよあれあれほとまもすとまもす
正えす正えすとまもすとまもすとまもすとまもす

うげの

まうす吹時女ほづまやほじはるまく

おひや牛牛の乳母

四三四

まうす吹時女ほづまやほじはるまく

おひや牛牛の乳母

まうす吹時女ほづまやほじはるまく

道金門署禁

いのんとて山海もひそむ
かゆりてあらけはのうむこや
おおとてごとくとゆいもるま

じとかわす

10
いのんとて山海もひそむ
かゆりてあらけはのうむこや
小束 陽明門院
おおとてごとくとゆいもるま
くわせよせよと
このとてりとてりとて
ほのかよなよ

